H28 アクションプラン　上半期の振り返りと今後のアクションシート　事業№15

①事業の基礎情報

事業名		市誌編さん事業		担当部・グループ名	こども未来部 文化スポーツグループ
実施期間		平成 26 年度～平成 29 年度		担当 GL 氏名	鈴木　明美
新規・継続の別		**新規事業**		電話番号(内線)	52-1111(内線 300)
総合計画（基本計画）体系	個別目標	(3)人と学びの輪を広げ、まちのチカラを育みます	予算書上の予算・事業名	款	10款 教育費
				項	5項 社会教育費
	こんなことに取り組みます	地域の良さ(歴史・文化・伝統など)を学び、地域の魅力の掘り起こし・情報発信を進めます。		目	6目 文化財保護費
				事業名	1　文化財保護事業
			総合戦略		□該当する　■該当しない
	みんなで目指すまちづくり指標名	高浜に愛着や誇りを持っている人の割合			

現状値(H25)	72	実績値(H26)	70	実績値(H27)	70	実績値(H28)		目標値(H29)	76	(単位) %

②事業の概要

目的 (何をどうするために)	★高浜市誌が発行されてから約 40 年が経ち、この間、市の状況も時代に合わせて刻々と変化している。また、かつての市誌に掲載されている情報も近年の調査・研究により、新知見が得られてきた。高浜市がより良い未来を目指すためには、これまで歩んできた歴史や人々の記憶を知る必要がある。市民に高浜市に住んでいることへの誇りを持っていただくと共に、市の歴史を後世に引き継ぐことを目的とし、市誌編さんを行う。		
対象(誰・何を対象に)	市民	対象の数量	46,892 人
最終目標 (最終的に何がどうなれば達成か)	☆高浜市が歩んできた歴史・人々の記憶を記した冊子等の発行を行う。その冊子等を制作する過程において、市民にも調査・執筆等に関わっていただき、生涯学習として高浜の歴史・文化を調査・研究していただける人材を育成する。このような人材が育つことで、高浜市の歴史が途切れることなく記録され、未来の高浜市民へ受け継がれていくことになる。		

③事業にかかる事業費概要

平成 28 年度（当初予算額）				主な内容
事業費総額（千円）			1,919	・市誌編さん委員会委員報酬　174 千円 ・費用弁償　17 千円 ・市誌編さん業務委託料　1,728 千円
財源内訳	一般財源		1,919	
	特定財源	国・県支出金	－	
		その他	－	
補助事業・単独事業の別			単独事業	

④上半期の進捗状況（目標の達成に向けて、どんなことに取り組んできたのかを整理する）

	何を・どのように・どうした　※箇条書きで記載する	いつ(年月)	アウトプット
実施内容	①編さん基本方針（案）を作成した。	H28.5	基本方針（案）
	②業者との委託契約を行った。	H28.6	委託契約締結
	③編さん委員会の委員候補者の選定を行った。【継続中】	H28.8～	委員の選定
	④市誌編さんを進めている他市への聞き取り調査を行った。【継続中】	H28.8～	基本方針（案）への反映
進捗状況	当初に掲げた計画どおり、順調に進んでいる。		

参画・協働・情報共有の工夫	★編さん委員会には、市民にできるだけ多く参加していただけるよう、また、女性や年齢層を意識した編成を考えながら交渉している。
実施内容に対する成果（事業の自己評価）	☆編さん段階や冊子の活用において、様々な分野からの意見をいただくため、委員会メンバーは専門家に偏ることのないよう、選定を行っている。また、他市への聞き取り調査を参考にしながらも、ベーシックな市誌ではなく「高浜らしく、市民と共に創る」というコンセプトを大切にしながら、基本方針（案）をさらに練り直し中である。

⑤課題と今後の取組みの方向性（上半期を振り返り、課題を抽出し、今後の取組みの考え方を整理する）

課題	今後の取組みの方向性
（1）資料の散逸や記憶の消失を防ぐ ・まちのあゆみを知ることができる各種資料や、人々の中にあるまちの記憶が失われてしまわないよう、調査・聞き取りを行い、適切に記録、収集・保存、伝承していくことが大切である。	・市民や事業者、各種団体、専門家等から情報を収集し、協力を仰ぎながら、各種資料や人材の掘り起こし、調査・聞き取りを行い、記録作業や体系的な整理作業を順次進めていく。
（2）多様な参加・参画 ・編さん過程を通して、市民のまちへの興味・関心、「知りたい」「調べてみたい」「伝えたい」「活かしたい」といった好奇心や意欲、まちへの愛着・誇りを高めていくことが重要である。 ・諮問機関である編さん委員会の編成にあたっては、編さん過程で市民意識を高めること、刊行後の活用策など、幅広い意見を求めていくための構成とする必要がある。	・市民に、資料の掘り起こし、調査、原稿執筆など、浅い関わりから深い関わりまで、多様な協力の呼びかけを行う。 ・編さん過程について、広報やHP、「タカハマ！まるごと宝箱」事業など、様々な機会を通じて情報を発信していく。 ・編さん委員会には、専門家だけではなく、一般の市民にわかりやすい内容にすること、市民目線での市誌の活用方法、老若男女問わず様々な現場での活用を意識した人選を行う。
（3）高浜市らしい市誌づくりに向けた人選・体制 ・編集委員長は、市誌の内容だけではなく、執筆・調査員の人選等、すべての面に助言をいただき、コーディネートしていただく立場の方である。 ・他市が編さんしているベーシックなものではなく、「高浜市らしい内容・編さん方法」をご理解いただいて、ご指導いただける編集委員長、その方針を受けて編集作業に携わっていただける編集委員を選定する必要がある。	・実績や専門分野等を考慮し、市の方針をご理解いただける方に、編集委員長や編集委員（市民委員を含む）をお願いしていく。

⑥課題解決に向けた下半期の具体的なアクション（案）

	何を・どのように・どうする　※箇条書きで記載する	いつまでに（年月）
実施内容	①編さん委員会のメンバーを決定し、委員会を開催する。	H28.10
	②編集委員長を決定し、調査執筆員の選定、部会の編成を行う。	H29.3
	③編さん委員会において基本計画の内容を確定させる。	H29.3
参画・協働・情報共有の工夫	★編さん委員会は公開制とし、市民が傍聴できるようにする。会議資料や会議録もHPで公開していく。	
	★広報等を通じて市民に情報提供をお願いするとともに、編さんの進捗状況もお知らせしていく。	
	★部会には専門家だけではなく市民にも入っていただき、高浜の歴史・文化を後世に伝える人材の育成を行う。	

特記事項	より多くの市民が気軽に高浜のあゆみを知り、親しみ、活用できるよう、費用や使いやすさ等を考慮しながら、市誌の電子化（PDF、電子書籍）や映像等での記録・発信について、検討を行う。